

【I コリント人への手紙 7章】

「兄弟たち。おのおの召された時のままの状態で、
神のみ前にいなさい。」

(I コリント7:24)



TLCCC FRH

天に登録されている長子たちの教会

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven

主任牧師:イエス・キリスト

牧師:ダニエル大衛

SHILOAM

【シロアム:遣わされた者】

2012.2.5 No.669

今年のみ言葉 歴代誌II 20:22

**我らが喜びの声、賛美の声をあげ始めたとき、
主は伏兵を設けて～彼らは打ち負かされた。**

なぜなら、神によって生まれた者はみな、世に勝つからです。
私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

Iヨハネ5:4



十字架による赦しのメッセージと、少年たちの銀の鈴の音
のような賛美・・・天国がそこには降りてきていました。

「殉教」より

主の十字架クリスチャンセンター (TLCCC)

The Lord's Cross Christian Center

<http://astone-blog.jp/tlccfrh/>

この章は結婚について詳しく書かれています。(パウロ自身は独身でしたし、福音宣教に専念するために、自分のようになれるのなら、そうできればいいけれど、人それぞれに生き方があると述べています。)

結婚するにしても、しないにしても、主軸はどこにあるのか何のための結婚か、何のための人生かということを問うています。

32～34節は、結婚した男は、どうしたら妻に喜ばれるのか、反対に結婚した女は、どうしたら夫に喜ばれるのかと世のことに心を配り、神を忘れてしまいがちなので、それは本来の神様の御心と違うのです。

23節 私たちはイエス・キリストの十字架という代価を払って買われたのです。ですからご主人である神様を中心において、結婚するのも、神のご栄光を表すためであり、もし未信者の夫が離れていくことがあって離婚に至っても、神があなたがたに平和を得させようとして召されたと言っています。伝道者の書(4:9～12)には、二人は一人よりも勝っている。という理由が書いてあります。二人が労苦すればよい報いがあること～二人が寝ると暖かい、打ち負かされた時立ち向かえる。三つ燃りの糸は簡単に切れないと言っています。これはあくまでもその中心に神様をおいての事でしょう。

また聖書は、結婚に例えて再臨のことを語っています。(マタイ25章)

キリストは花婿で、教会は花婿に嫁ぐ花嫁だと言っています。シミも傷も無い美しい花嫁として、整えられています。今は花婿をお迎えする準備の時であり、結婚式のリハーサルの時です。

知人の告別式に行った時のことです。亡くなられた方を思うと寂しいだろうと、暗い顔をして行ったのでしょう。なんとその娘さんが、「なんでそんな顔をしているんですか？今日は父の結婚式ですよ。」と輝いておられたのです。この世の歩みを終えて死ぬことは、花婿なるイエス・キリストと相まみえる時、一つとなるまさに結婚式です。

今日は殉教記念日です。26聖人はイエス・キリストのために苦しみを受けましたが、この日、すべての苦しみから解放され、イエス・キリストの花嫁として天に挙げられたのです。ですから彼らは喜んでいたのでしょう。

以前から、殉教と言うと暗い、悲惨というイメージがありましたが、これでその謎は解かれました。そうです。彼らは、肉体の苦しみにより、更に更にきよめられ(Iペテロ4:1 肉体において苦しみを受けた人は、罪との関わりを断ちました。)走り尽くすべき工程を走り抜き(ヘブル5:8)、主に会えるという喜び、主と一つになれるという喜びと希望に満ちて、天に駆け上がったのです！

* 皆様のお手荷物・貴重品等には十分ご注意下さい。

教会内での紛失や盗難等については一切責任を負いかねます。